

令和元年5月27日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H01722

研究課題名(和文) 原史料メタ情報の生成・管理体系の確立および歴史知識情報との融合による研究高度化

研究課題名(英文) Development of a method for generating meta information held by historical materials, establishment of a method for managing it, and promotion of research by fusing it with historical knowledge

研究代表者

山家 浩樹 (YANBE, Koki)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：60191467

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、歴史史料調査にともなって生成される多様なメタデータを総合し、汎用的な利活用を実現することを目指した。調査対象とした史料そのものに関する情報、すなわち文書史料・写真史料を中心にその組成や形状、破損や劣化、改変・修理履歴といったデータを余すことなく記録・保全するための方法論を構築した。加えて近代以後の調査履歴を精査することで、調査対象史料の伝存状況を明らかにし、適宜参照できる体制を整えた。こうした諸情報については、統合的に保全・参照するためのシステムを構築し、汎用的利用が可能となるよう整備を進めたところである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、史料原本に関する各種情報は、一元化されることなく別個に管理されるのが通例であった。本研究では、種別の異なる史料であっても、調査方法の平準化やデータ属性の共通化を通じて、各種のメタ情報を有機的に網羅するとともに、システム構築を通じて一元的にかつ組織的に掌握する方法論を確立することができた。

研究成果の概要(英文)：This research aimed to integrate the various metadata generated along with the research on historical materials and to realize versatile utilization. Specifically, we focused on documents and photos, and examined methods to record all data such as composition, shape, damage and deterioration, modification and repair history. In addition, through detailed analysis of survey information since the Meiji era, we have clarified the history that the target historical material has traced, and developed a method that allows such information to be referenced. We have concentrated on such a variety of information in one integrated database, and we strived to use them from various angles.

研究分野：日本中世史、室町幕府の研究

キーワード：日本史 情報図書館学 ディレクトリ・情報検索 史料学 歴史史料情報

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者の所属する東京大学史料編纂所においても、100年以上にわたり各種の史料調査が行われてきたが、史料目録に代表される史料内容にかかわるデータ、紙質などの組成情報やコンディションに関するレポート、史料の調査履歴などが一元的に管理されておらず、研究を進めるうえで非効率な環境にあった。こうした状況は、研究分担者が所属する組織においても同様であり、機関ごとの特性を乗り越えた、汎用的かつ合理的なスキームを調査段階から設計する必要に迫られていた。

### 2. 研究の目的

史料調査項目の精査、汎用的なデータ生成・管理方法の確立、近代以降の史料調査の来歴を関係史料から確立する、以上の諸情報を一元的に入力・管理するシステムを設計し、汎用的な利活用を確立することで、史料保全や史料研究の進展に寄与する。

### 3. 研究の方法

(1) 紙媒体の史料と写真関連史料を対象の中心にすえ、調査方法・項目の精査を行い、調査スキームの共有化や生成データの共通化などを進めることで、汎用的に調査データを蓄積・利活用できる「史料情報統合管理システム」の設計・開発を目指した。

(2) 同時に紙媒体史料における組成分析や形状的特性など、物体としての史料が持つ情報を対象とする調査技法の確立を図るとともに、写真史料においては特に取り扱いや保存が難しいガラス乾板を主対象に、コンディション確認の基準や保存技法の提案、写された図像のデジタル化などを推進した。なお史料調査の方法論をめぐっては、文化財保存を実践する地方自治体などと連携し、新技法の相互提案や経験共有などを展開することを意図した。

(3) 史料編纂所が、明治20年代以降に史料編纂を本格的に進めるにあたって展開した史料探訪に関する公文書綴「往復」を精査するとともに、所内外に残る調査記録も併せて分析することで、主要史料の近代以降の来歴・調査履歴を明確にすることに努めた。こうした史料情報を、上記の調査データとすり合わせることで、対象史料をより高度に理解し、保存や研究に資する環境整備を目指した。

### 4. 研究成果

(1) 古文書・古記録・典籍といった紙媒体の史料については、史料編纂所が従前より実施してきた国宝・重文等の修理事業に伴って作成された諸情報を中心に、デジタル化やデータ属性の調整を進めた。とりわけ近年実施された国宝「島津家文書」や重文「中院一品記」の修理事業をめぐっては、修理に伴う調査手順・方法を確立させるとともに、調査データ(紙質情報・顕微鏡写真・法量・コンディションレポートなど)を含めてその過程を普く記録・保全する体制を整えた。当該情報については、本研究も開発に参画した「史料情報統合管理システム」上に登録し(史料編纂所「原本史料解析による複合的史料研究の創成事業」と共同)、一元的な管理を実現したところである。

(2) 写真史料については、史料編纂所所蔵のガラス乾板(約13000枚)およびその焼付である台紙付写真の調査・保全作業を通じて、調査方法・調査項目・状態の評価方法・劣化への対応策など多岐にわたるテーマについて研究を深めた。その成果については2016年度には研究代表者山家・研究分担者久留島及び高橋を編者として『文化財としてのガラス乾板』(勉誠出版)にまとめて刊行した。続く2017年度には研究集会「写真資料の保存と学術資源化」を催し、内外の有識者を交えて討議を行うことで方法論の一層の深化を目指したところである。また、これまで未整理となっていた1万枚を超える乾板からの焼付写真の調査を行い、その来歴を明らかにするとともに、デジタルデータを作成して史料編纂所所蔵史料目録にリンクし、史料編纂所閲覧室における公開に供した。

(3) 史料群を対象とした近代以降の学術調査の履歴を検証する目的で、史料編纂所が所蔵する「往復」の調査・撮影を実践した。同史料は、明治20年代以降に同所が『大日本史料』編纂のために実施してきた史料探訪に関する公文書綴であり、近代日本史学の動向をたどるうえで欠くべからざるものとなる。前近代を対象とする主要史料を遍く調査した履歴を示すもので、一冊当たりの簿冊は平均400頁を越え、総冊数は430冊に及ぶ大部なものとなる。本研究では、その目録を作成して保存措置を行うとともに、デジタル撮影を行って今後の研究資源化の基礎を構築した。また辻善之助元史料編纂所長が残した膨大な日記・記録(姫路文学館所蔵)についても調査を展開し、前記「往復」を補う情報の収集に努めたところである。

(4) 上記に示した史料調査方法およびその情報活用のスキームについては、本研究参加メンバーで共有するのみならず、様々な局面において史料保存と活用に取り組んでいる実務担当者との経験交流を実施することで、質的向上を図った。具体的には、大分県立先哲史料館における講習会の開催(2015~2018年度、各年度2月)、全国大学史料協議会東日本部会研究会(2017

年7月)、埼玉県地域史料保存活用連絡協議会実務研修会(2018年7月)などを挙げることができる。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計26件)

- 山家浩樹、島津氏と禅宗寺院、黎明館調査研究報告、31、2019年、pp.65-74、査読無
- 井上聡、谷昭佳、高山さやか、東京大学史料編纂所における史料デジタル撮影のあらましについて、埼玉県地域史料保存活用連絡協議会会報、45、2019年、pp.10-12、査読無
- 井上聡、研究資源の生成・活用をめぐる、歴史評論、831、2019年、査読無
- 三井圭司、高橋則英、打林俊、三木麻里、文化財としての写真原板の活用、東京都写真美術館紀要、No.18、2019年、pp.9-33、査読無
- 後藤真、日本史研究と人文情報学 10年の変化とこれからの展望、日本歴史、848、2019年、pp.2-8、査読無
- 谷昭佳、歴史学と写真(二)ー学術出版における写真の利用ー、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、84号、2019年、pp.3-5、査読無
- Taizo YAMADA, Satoshi INOUE, A Common Base of Knowledge for Japanese Historical Materials and its Application、2018 Pacific Neighborhood Consortium Annual Conference and Joint Meetings (PNC)、8579468、2018年、pp.1-6、査読有  
DOI: 10.23919/PNC.2018.8579468
- 渋谷綾子、高島晶彦、天野真志、山田太造、小島道裕、尾上陽介、古文書の起源の追跡にむけた前近代の和紙の構成物分析:研究の現状と課題,方法の展開、日本文化財科学会大会研究発表要旨集、35th、2018年、pp.52-53、査読有
- 後藤真、「デジタルアーカイブ」とアーカイブズ,そして歴史学を取り巻く現在と未来(歴史家とアーキビストの対話(第4回))、歴史学研究、974、2018年、pp.18-24、査読無
- 林讓、花押・筆跡データの網羅的収集と汎用的利用をめざして、情報処理学会電子図書館「研究報告人文科学とコンピュータ(CH)」、2017-CH-115、2017年、pp.1-4、査読無
- 尾上陽介、『明月記』原本の特異性、日本文学研究ジャーナル、2、2017年、pp.7-21、査読無
- 高橋則英、金丸重嶺と新興写真の時代、FONS ET ORIGO(没後40年記念 写真家金丸重嶺 新興写真の時代 1926-1945) Vol. XX, No.1、2017年、pp.803-807、査読無
- 高島晶彦、中世古文書料紙の研究と保存について、興風、29、2017年、pp.23-49、査読無
- 佐藤雄基、朝河貫一とジョン・ケアリー・ホルの往復書簡の紹介:1910年代英語圏における日本史研究と日本アジア協会の歴史家たち、立教大学日本学研究所年報、16、2017年、pp.82-71、査読無
- 高橋則英、日本の写真化学の始祖・上野彦馬 - 幕末明治を撮った写真師、化学と工業、第69巻第7号、2017年、pp.542-544、査読無
- 松沢裕作、『近代日本のヒストリオグラフィ』の意図と達成、史苑、77-1、2016年、pp.79-82、査読無  
DOI: /10.14992/00013227
- 後藤真、総合資料学のための資料情報共有手法の構築にむけて、人文科学とコンピュータシンポジウム論文集、2016、2016年、pp.103-110、査読有
- 尾上陽介、陽明文庫所蔵の『明月記』紙背文書について、明月記研究、14、2016年、pp.74-85、査読無
- 山田太造、東京大学史料編纂所の編纂とその業務にともなうデータベース、「資料がつなく大学と博物館「研究循環アクセスモデル」の構築にむけて」予稿集、2016年、pp.52-55、査読無
- 高山さやか、ガラス乾板の整理と保全と情報化から見えてくるもの、日本写真学会誌、79-1、2016年、pp.29-35、査読無
- ① 和田幸大、中院一品記の筆跡・筆法に関する調査・分析、東京大学史料編纂所研究成果報告2015-1 東京大学史料編纂所所蔵『中院一品記』修理事業に伴う調査と研究、2016年、pp.1-21、査読無
- ② 林讓、小特集「中世・近世文書料紙研究の現状について」まえがき、古文書研究、80、2015年、pp.1、査読無
- ③ 井上聡、高島晶彦、財津家所蔵「野上文書」について、(大分県立先哲史料館)史料館研究紀要、20、2015年、pp.25-41、査読無
- ④ 金子拓、東京国立博物館所蔵長篠合戦図屏風について、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、71、2015年、pp.8-20、査読無
- ⑤ 高島晶彦、金子拓 他、東京大学史料編纂所所蔵「落合左平次道次背旗」の保存修理について、東京大学史料編纂所附属画像解析センター通信、71、2015年、pp.2-7、査読無
- ⑥ 高島晶彦、デジタル機器を利用した古文書料紙の分析、古文書研究、80、2015年、pp.2-11、査読有

[学会発表](計13件)

山田太造、収集史料の体系化と永続的な利用に向けた管理、第 118 回人文科学とコンピュータ研究発表会、2108 年

山田太造、複製による日本関係史料の収集とその永続的管理、国際シンポジウム「デジタル時代における人文学の学術基盤をめぐって」、2018 年

山口孝子、三木麻里、荒木臣紀、高橋則英、現存する幕末期ダゲレオタイプの調査と持続可能型文化財保存ネットワーク構築の試み、2018 年度日本写真学会年次大会、2018 年

後藤真、資料のデジタル化が開く未来を改めて考える、第 44 回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 全国（沖縄）大会及び研修会、2018 年

井上聡、近代修史事業と史料収集の来歴 - 佐田文書の再発見 -、大分県立先哲史料館秋季企画記念講演会、2017 年

谷昭佳、ガラス乾板の資料学、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター研究集会「写真資料の保存と学術資源化をめぐって」、2017 年

谷昭佳、東京大学史料編纂所におけるデジタル史料画像の生成についての取り組み、International Conference on Digital Preservation、2017 年

山田太造、史資料と考古資料を利用していく環境、第 113 回人文科学とコンピュータ研究会発表会、2017 年

高橋則英、文化財としての写真 - その記録性と継承、2016 年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会シンポジウム、2016 年

山田太造、Text structure of Japanese history historical materials and effort for applying TEI in Historiographical Institute of the University of Tokyo、The 1st International Workshop on Models of Japanese Texts and TEI、2016 年

高橋則英、日本の写真化学の始祖・上野彦馬 - 幕末明治を撮った写真師、日本化学会第 96 春季年会・化学遺産市民公開講座、2016 年

後藤真、総合資料学の射程と歴博情報基盤構築プロトタイプ、国立歴史民俗博物館 公開シンポジウム「資料がつなぐ大学と博物館」「研究循環アクセスモデル」の構築にむけて、2016 年

井上聡、中院一品記修理の概要と史料展示、シンポジウム「文化財を守り、伝えるために～『中院一品記』修理事業から～」、2015 年

#### 〔図書〕(計 9 件)

尾上陽介 他、吉川弘文館、陽明文庫 近衛家伝来の至宝ー設立 80 周年記念特別記念研究集会記念図録一、2019 年、38

高橋則英 他、東京都写真美術館、写真の起源 英国、2019 年、247

山家浩樹、山川出版社、足利尊氏と足利直義、2018 年、104

山家浩樹 他、勉誠出版、古文書料紙論叢、2017 年、896

高橋則英 他、青幻舎、写真技法と保存の知識、2017 年、366

久留島典子、高橋則英、山家浩樹、山田太造、井上聡 他、勉誠出版、『文化財としてのガラス乾板 - 写真が紡ぎなおす歴史像』、2017 年、262

後藤真、山田太造 他、吉川弘文館、総合資料学 の挑戦、2017 年、180

高橋則英 他、山川出版社、レンズが撮らえた 日本人カメラマンの見た幕末明治、2015 年、207

松沢裕作、佐藤雄基、高木博志 他、山川出版社、近代日本のヒストリオグラフィー、2015 年、240

#### 〔その他〕

大分合同新聞 2016 年 3 月 3 日 夕刊 史料撮影技術 東京大に学ぶ

朝日新聞 2017 年 7 月 12 日 夕刊（関西版） 大量の「ガラス乾板」いかすには

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：林 譲

ローマ字氏名：HAYASHI, yuzuru

所属研究機関名：東京大学

部局名：史料編纂所

職名：教授

研究者番号（8 桁）：00164971

研究分担者氏名：尾上 陽介

ローマ字氏名：ONOE, yosuke

所属研究機関名：東京大学

部局名：史料編纂所

職名：教授

研究者番号（8桁）：00242157

研究分担者氏名：高橋 則英

ローマ字氏名：TAKAHASHI,norihide

所属研究機関名：日本大学

部局名：芸術学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：10188039

研究分担者氏名：井上 聡

ローマ字氏名：INOUE,satoshi

所属研究機関名：東京大学

部局名：史料編纂所

職名：助教

研究者番号（8桁）：20302656

研究分担者氏名：松澤 裕作

ローマ字氏名：MATSUZAWA,yusaku

所属研究機関名：慶應義塾大学

部局名：経済学部（三田）

職名：准教授

研究者番号（8桁）：20361652

研究分担者氏名：松村 敦

ローマ字氏名：MATSUMURA,atsushi

所属研究機関名：筑波大学

部局名：図書館情報メディア系

職名：助教

研究者番号（8桁）：40334073

研究分担者氏名：箱石 大

ローマ字氏名：HAKOISHI,hiroshi

所属研究機関名：東京大学

部局名：史料編纂所

職名：准教授

研究者番号（8桁）：60251477

研究分担者氏名：山田 太造

ローマ字氏名：YAMADA,taizo

所属研究機関名：東京大学

部局名：史料編纂所

職名：助教

研究者番号（8桁）：70413937

研究分担者氏名：田中 大喜

ローマ字氏名：TANAKA,hiroki

所属研究機関名：国立歴史民俗博物館

部局名：大学共同利用機関等の部局

職名：准教授

研究者番号（8桁）：70740637

研究分担者氏名：後藤 真

ローマ字氏名：GOTO,makoto

所属研究機関名：国立歴史民俗博物館

部局名：大学共同利用機関等の部局

職名：准教授

研究者番号（8桁）：90507138

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。